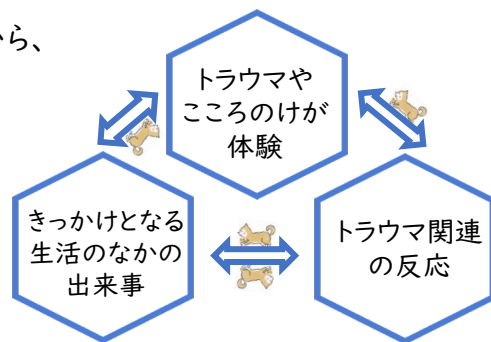




# 🕶️ トラウマのメガネでも見てみよう

こころのケガに配慮するケアは、  
トラウマやこころのケガ体験が影響しているかもしれないという視点から、  
患者さんに今起きていることへの理解を深めることに役立ちます。

トラウマやこころのケガを体験すると、  
その体験を思い出させる出来事(リマインダー)が引き金となり、  
トラウマ関連の反応が起こりやすくなります。



Yさんの体験をトラウマのメガネでもみていきましょう。

Yさん 20歳代 男性

中学校のとき、頭痛や腹痛を訴え食事をとれなくなり、神経性食欲不振症と診断され3カ月入院した。高校では美術部の活動に打ち込み、賞をとることもあった。3年時友人関係がうまくいかず、次第に食事をとれなくなり、「生きている価値がない、死にたい」と包丁を手にする。その後、学校に行かず、自室にひきこもり食事もとらず、独り笑いが目立つようになった。一日中布団の中で過ごす状態が続き、医療保護入院となった。入院当初は拒食、拒薬、視線も合わなかったが、回復し表情も出るようになり3カ月後に退院。高校卒業後、美術系大学への進学を機に一人暮らしを始め、通院は継続していた。卒業制作のプレッシャーや仲の良かった友人が退学したこと、バイト先で理不尽に怒鳴られたことから食事をとらなくなり、服薬ができず、独り笑いが出るようになった。再び学校に行かず、一日中布団の中で過ごしていた。亜昏迷状態で医療保護入院となる。ベッドに横になったまま、問いかけに返事をしない状態が続いた。横になってはいるが熟眠できていない様子はなく、時折小さく叫んで起き上がり、汗をかいていることがある。入院から2カ月经ち、発語はないものの「夜眠れる?」「ご飯は食べれる?」といった質問にうなずき答えるようになった。作業療法に参加中、男性他患の大声を耳にし、体をこわばらせる様子がみられた。「びっくりしましたね。大丈夫ですか?」と声をかけたが、視線は合わず返答もなかった。共同利用の浴室で他患と重なるときには入浴せずに済ませる日もあるようだ。

- ① Yさんの体験から、トラウマ関連の反応とも考えられるものがありますでしょうか。  
なんでも書き出してみてください。(ガイダンス3、4章参照)

- ② トラウマ関連の反応が起こるきっかけとなった出来事(リマインダー)と考えられるものがありますでしょうか。なんでも書き出してみてください。

①②に挙げたものや、トラウマやこころのケガ以外の視点でも気づいたこと、気になったことなどを同僚やチームと共有してみることで、様々な視点が重なり、Yさんの体験への理解をさらに深めることにつながります。



Next Lens's HINT

〇つの原則



左のQRコードを読み取っていただくと、お問い合わせページへつながります。ご意見、ご感想もお待ちしております。